

議員氏名：一石 洋子

議案番号：議案第47号

案件名：令和8年度二宮町一般会計予算

討論内容：

私は、令和8年度予算に賛成討論をさせていただきます。

もう三度目の賛成討論であります。

新しい予算説明資料追補版の公共施設用地の課題対応について、2点ほど意見を述べたいと思います。

公共施設用地の課題対応について、ここまで国立小児病院跡地は、新たなレッドゾーン指定、マーケットサウンディングの不調がありました。

袖が浦プールは、地域の意見、アンケートなど、住民目線のつかみは行ったところ。吾妻山借地料については、多くの地主がおられ、コミュニケーションが困難という状況。しかしながら、廃止となった温水プールの活用については、また、東大果樹園跡地のシンボル事業については、注目すべき官民協働の成果があったと捉えています。いずれも、SDGsに係る重要な町の事業となる可能性を持っています。

二宮のブランド力は、自然と人、そこから生まれる創発だと、ここまでの議員活動で確信しています。その中で、ケアし合う人間の共感と協働の本質という、人間の自然が大きな鉱脈を持っていると考えます。

海に見える国立小児病院跡地、360度の絶景の宇宙庭園といえる吾妻山、そして、二宮型リゾートの歴史ある袖が浦プール、実はすばらしい資源です。

予算否決を受けて、観光協会のPR動画、ガバメントクラウドファンディングが見送られたことは非常に残念です。町外の交流人口や移住、さらに、新しいアイデア、社交が生まれる出窓のような事業でした。

吾妻山の地主との交渉のみならず、町内の荒れた山林の喫緊のケアには、多くの人を動かす機運が必要です。

にのみやこども権利フォーラムの協働する、最初のラディアンホールでのシンポジウムは演劇で始まりました。子育て中のお母さんが、見事におじいさんに扮して、客席からどっこいしょと舞台上に上がりました。その斬新さと、大きな地域を包み込む風呂敷のような愛情は忘れられません。

おじいさん、おばあさん、そして、みんなともっと話したい。みんなが住むまちをみんなでつくりたいというメッセージが、今までの二宮こども権利条例に向けた様々なアピールにあふれています。

そして、東大果樹園跡地のみらいはらっぱのシンボルの柱には、COMMONという文字が刻まれています。COMMONというのは、みんなで共有して、創発するということというラテン語から来ていますが、バルセロナコモンは非常に有名であります。今般、混迷する世界に、サグラダ・ファミリア、バルセロナにあります、これが世界に一筋の光をともしたことは、つい先日のことでした。

東大農学部のスローガンは、今や、生きものの力で社会を変えるです。二宮町の価値、コンセプトを高め、町有地活用の物語が生まれるような資源のてこ入れを、議員含め、行政、地域がつながり、まちづくりに向かうことを祈念する次第です。

幼稚園、保育園、そして、学校における作業療法のいち早い活用やファシリテーター講座、学校内居場所、そして、子どもが主語になる学校づくりに発展すべき材料が多々あります。ぜひとも学校を開き、子どもが学び、遊び、育ち合う、本能があふれてくるような学校改革こそ、次の一大事業とするべく、準備を進めていただきたいと思います。